

報道関係者各位

三井不動産レジデンシャル株式会社

三菱地所レジデンス株式会社

2023年9月15日（金）第二期 事前案内会開始

「三田ガーデンヒルズ」 新たに WEST HILL 棟を販売

～ウェルビーイングの向上を目指した『カーボンニュートラルデザインプラン』、『バイオフィリックデザインプラン』を導入～

三井不動産レジデンシャル株式会社（本社：東京都中央区 代表取締役社長：嘉村 徹）および三菱地所レジデンス株式会社（本社：東京都千代田区 代表取締役 社長執行役員：宮島 正治）は、2023年9月15日（金）より、港区三田一丁目にて建設中の分譲マンション「三田ガーデンヒルズ（以下、本物件）」の第二期 事前案内会（完全予約制）を開始することをお知らせいたします。

本物件においては、持続可能な社会の実現に向けて、既存建物と既存樹木の一部保存・再生、価値ある緑豊かな環境を維持すべく確保した約 7,700 m²のランドスケープデザイン、太陽光発電設備や燃料電池の実装、全戸 ZEH-Oriented の取得など、様々な環境配慮施策を実施しておりますが、今般、第二期にて販売予定の WEST HILL 棟（8 階建て）においては、更なる環境配慮への工夫を取り入れた 2 つの自然調和型プランをご案内いたします。本プランは、先進設備機器による創エネだけに頼ることなく、日本古来のすまいとくらしの知恵から導き出された建築的なプランニングの工夫と、自然の力を活かして快適に過ごす“パッシブデザイン”を取り入れることで省エネ・CO2 削減を実現する「カーボンニュートラルデザインプラン」や、多様な自然要素を住戸内に取り入れることで人間本来の活力を引き出すことを目的とした「バイオフィリックデザインプラン」など、ウェルビーイング^{*1}の向上を目指した企画となっております。

今後も多様化するライフスタイルに応える商品・サービスを提供するとともに、安全・安心で快適にくらせる街づくりを推進し、持続可能な社会の実現・SDGs への貢献を進めてまいります。

WEST HILL 棟の特長

- より身近に“緑”を享受することが可能な、本物件唯一の 8 階建て
大型のルーフバルコニーやテラス等の豊かな外部空間を擁する豊富なプランバリエーション
- ウェルビーイングの向上を目指した 2 つの「自然調和型プラン」
 - カーボンニュートラルデザインプラン ～一次エネルギー消費量削減率約 ▲53%^{*2} を達成～
 - 建築的なプランニングの工夫による省エネへの取り組み
 - サステナブルな社会の実現に向けたその他の取り組み
 - バイオフィリックデザインプラン ～住戸内に緑を取り入れ、自然と一体となった空間演出～
 - バイオフィリアを体現するプランニング
 - 自然を“五感”で体感する様々な仕掛け
- より快適なくらしを実現する「ライフスタイルサポート企画」
 - 家事サポートプラン ～家事負担軽減をサポートするハウスキーパー対応プラン～
 - ケアホームアテンダント ～生活密着型サービス～



【WEST HILL 棟 完成予想イメージ】



【バイオフィリックデザインプラン 完成予想イメージ】

1. より身近に“緑”を享受することが可能な、本物件唯一の 8 階建て

WEST HILL 棟では、本物件の象徴的要素の 1 つである“緑”をより身近に享受することが可能です。中庭のみならず、建物の西側にも豊富な植栽帯をレイアウトし、緑に囲まれた生活を楽しむことが出来ます。住戸面積約 56 m²～約 182 m²までの豊富なプランバリエーションをご用意するとともに、一部住戸には「大型テラス（平均面積約 49 m²）」と「大型ルーバルコニー（平均面積約 44 m²）」を設置することで、都心の住宅とは思えない豊かな外部空間を創出しました。



【網町三井倶楽部から臨む 完成予想イメージ（本物件：左中央）】



【全体配棟 イメージ】



【カーボンニュートラルデザインプラン 完成予想イメージ】

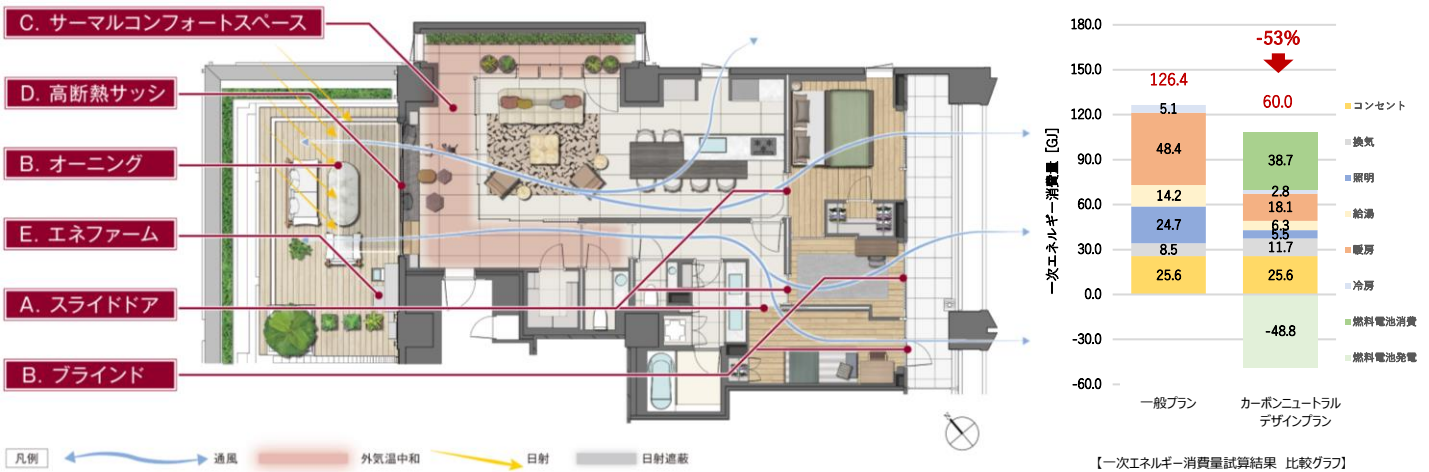
2. ウェルビーイングの向上を目指した 2 つの「自然調和型プラン」

本物件では太陽光発電設備の導入や全戸 ZEH-Oriented の取得など、脱炭素社会の実現に向けた様々な施策を実施することでカーボンニュートラルに貢献するとともに、ウェルビーイング向上にも寄与する、“新たなすまいとくらし”の提案に向けて更なる取り組みを進めております。自然とのつながりをより身近に感じることが出来る WEST HILL 棟では、新たに 2 つの「自然調和型プラン」をご提案いたします。

(1) カーボンニュートラルデザインプラン^{※3} ～一次エネルギー消費量削減率約▲53%を達成～

「カーボンニュートラルデザインプラン」は、三井不動産グループが CES2022 で発表した「先進設備機器による創エネだけに頼ることなく、自然に寄り添った日本古来のすまいとくらしの知恵から導き出された建築的なプランニングの工夫」により一次エネルギー消費量削減率約▲53%を実現するプランです。

本プランは、設備機器を用いて人工的に環境をコントロールするのではなく、“自然と調和し、その力を活かしながら快適に過ごす”という、日本家屋に見られるパッシブデザインの考え方にヒントを得た空間設計が特徴です。住戸全体を空気が流れるよう、襖や障子からデザインの着想を得た「スライドドア」によって風の通り道を確認し、自然通風による温度低減を目指しております。また、内と外を繋ぐ縁側のような空間に、“空間自体を断熱層に見立てる”という考え方を取り入れた新たな中間領域「サマルコンフォートスペース」が、外気温の温度変化によるリビング・ダイニングへの影響を抑制することが期待されます。その他にも庇や簾のような、日射しを調整することが出来る「オーニング」や「ブラインド」を設置しました。



【カーボンニュートラルデザインプラン イメージ図】
 （記載の設備については、その他一部住戸においてもオプションで選択いただける場合があります。）



【同タイプ一般プラン イメージ図】

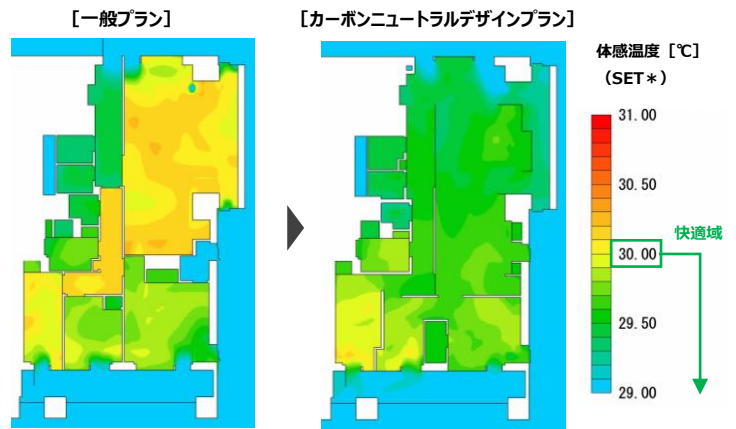


【カーボンニュートラルデザインプラン 完成予想イメージ】

① 建築的なプランニングの工夫による省エネへの取り組み

A. 通風改善 (スライドドア)

- ・住戸全体を風が流れるよう、通風上効果的な箇所への「スライドドア」の設置や、計画地周辺の風環境と住戸内の風の通り道を踏まえたプランニングにより、エネルギーを使わない自然換気が効率的に行えるよう設計しました。
- ・住戸内の通風向上による温度環境の変化がもたらす「快適性」を、体感温度指標 (SET*) を用いて定量化することで^{※4}、冷房を使用せず心地よく過ごすことが出来る期間を算出し、エネルギー消費量を数値化^{※5}しました。



【自然換気による体感温度の変化 イメージ図】
(6月下旬、昼間、外気温 28℃、湿度 67%の状態における試算)

B. 日射遮蔽 (オーニング、ブラインド)

- ・日射による温度変化が大きいルーフバルコニーに面する大型サッシ前には「オーニング」を、また住戸内の各サッシ前には「ブラインド」を設置。住戸内に入る日射を遮蔽し、室内の温度上昇を抑制することで冷房利用の削減を目指しました。



【オーニング 完成予想イメージ】



【ブラインド 完成予想イメージ】

C. 外気温中和 (サーマルコンフォートスペース)

- ・バルコニーとリビング・ダイニングの間には、外気温による温度変化を低減する中間領域「サーマルコンフォートスペース」を設置。温度変化の大きい夏と冬においては、スライドドアで空間を区切ることによって空調対象範囲を限定すると同時に、空間自体を断熱層に見立て、室内外の温度を中和する「外気温中和領域」として機能させることで、リビング・ダイニング空間における温度変化の負荷を低減し、冷暖房利用の削減を目指しました。また冬であっても、昼間の日射取得と保温効果により、暖房を使用しなくても一定時間は、縁側のような温もりを感じられる心地よい空間が創出されます。
- ・外気が心地の良い中間期 (春秋) においては、窓と併せてスライドドアを開け放って自然の風を住戸内に取り込むことで、自然換気により、冷暖房を使用しなくても快適な温度環境の維持が期待されます。
- ・個室として書斎的な使い方はもちろん、趣味のディスプレイや収納空間としても楽しむことができます。また、エントランス～ホール～LDK まで一体的に連続した空間構成であるため、実質 30 畳超の大型の LDK 空間としても利用可能です。



【サーマルコンフォートスペース 完成予想イメージ】

D. 断熱強化 (高断熱サッシ)

- ・熱取得、熱損失の大きい開口部には、アルミ樹脂複合構造の高断熱サッシを採用。断熱性能を強化することで、外部環境による住戸内への温度変化による負荷を抑制し、冷暖房利用の削減を目指しました。

E. 排熱利用 (エネファーム)

- ・発電時の排熱を給湯に利用することで、エネルギーロスを減らす家庭用燃料電池「エネファーム」を採用。停電時にはガスによる発電が可能^{※6}であるため災害時のレジリエンス強化にも寄与します。



【エネファーム イメージ画像】

② サステナブルな社会の実現に向けたその他の取り組み

プランニング上の工夫のみならずインテリアデザインにおいても、カーボンニュートラルへの貢献を目指すとともに、また、サステナブルなライフスタイルの実現に向けて、三井不動産グループの三井デザインテック株式会社と協働し、FSC 認証^{※7}取得・100%再生材利用・カーボンオフセットなどの SDGs の観点から、環境に配慮した建材・家具・小物等をご提案^{※8}いたします

(2) バイオフィリックデザインプラン^{※9} ～住戸内に緑を取り入れ、自然と一体となった空間演出～



【バイオフィリックデザインプラン 完成予想イメージ】

現代社会においては、多くの人が日常的なストレスや疲れを抱え、メンタルヘルスの不調など様々な問題に直面しています。植物の存在が自律神経を整えて気持ちをリラックスさせ、また、集中力を向上させるなど、多くのポジティブな心理的効果を生むことが実証されており、日常的に自然に触れる機会を増やすことが重要視されています。

視覚 VISION



味覚 TASTE



嗅覚 SMELL



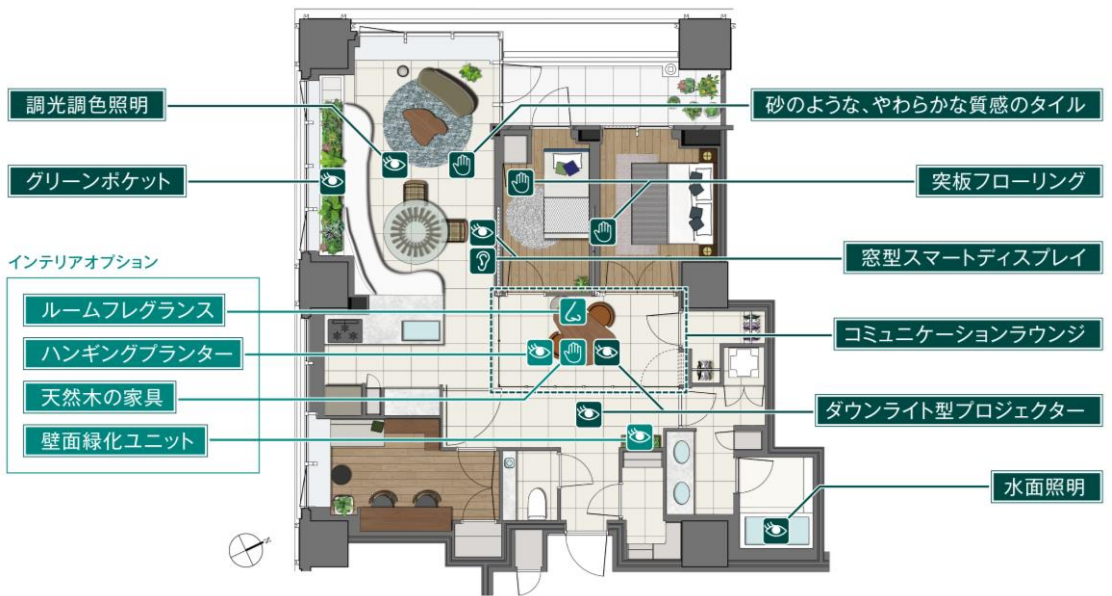
聴覚 HEARING



触覚 TOUCH



【バイオフィリックデザインプラン イメージ画像】



【バイオフィリックデザインプラン イメージ図】

(記載の設備については、対象住戸においては、一部はイニシャル採用、一部はオプションで選択いただけます。その他一部住戸においてもオプションで選択いただける場合があります。また、植栽は含まれません。)

① バイオフィリアを体現するプランニング

「バイオフィリックデザインプラン」では、バイオフィリア^{※10}の概念に基づき、植物をはじめとした多様な自然要素を住戸内の随所で身近に感じられるようにすることで人間本来の活力を引き出し、住まい手の幸福度や生産効率等を改善させることを目指しました。また空気清浄効果があるとされている植物を住戸内に積極的に取り入れることで、より健康に配慮した住環境を実現します。三井不動産レジデンシャルのブランドコンセプト「Life-styling × 経年優化」と三菱地所レジデンスのブランドコンセプト「一生ものに、住む。」を元に、自ら手をかけて育て時間が経つほどに美しくなる本物の植物と寄り添ったバイオフィリックな暮らしをご提案いたします。

A. 室内における植栽育成・配置の工夫

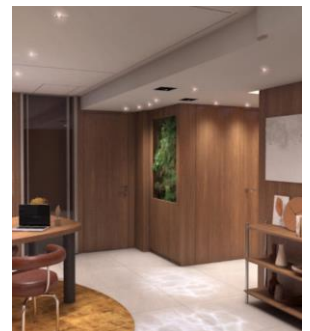
三井不動産グループの第一園芸株式会社と協働し、森のような豊かな自然を再現する多種多様な植栽の選定と、効率的な植栽レイアウトを提案いたします。没入型自然体感スペース「グリーンポケット」の設置により、外部空間のような豊富な緑量を確保。またグリーンポケット内には給排水設備も設えることで、室内緑化のハードルを下げることを目指しました。また、「壁面緑化ユニット」と「ハンギングプランター」などの、“床置き”にとらわれないインドアグリーンによって、立体的に空間を演出します。



【グリーンポケット 完成予想イメージ】



【グリーンポケット(左)・ハンギングプランター(右) 完成予想イメージ】



【壁面緑化ユニット 完成予想イメージ】

B. 室内におけるインドアグリーンの視認性を高める工夫

住戸内の各所において、連続的にインドアグリーンを感じられるよう「コミュニケーションラウンジ」には透過性のあるガラスドアを採用しました。コミュニケーションラウンジからはグリーンポケットを見通すことが出来るため、緑の連続性が空間に広がりをもたらすと同時に、家で過ごす室内の時間においても自ずと植物が目に入る機会を増やします。また、複数の可動間仕切りによる可変性の高い空間構成が、多様なライフスタイルやライフステージの変化に応じた様々なニーズに対応します。



【コミュニケーションラウンジ 完成予想イメージ】



【LDK～コミュニケーションラウンジ 完成予想イメージ】

(Ⅰ) LDK に隣接しつつも独立したセカンドリビング



(Ⅱ) LDK と完全一体となった大型の LDK



(Ⅲ) 2つの居室それぞれに付帯する個室型スペース



【コミュニケーションラウンジの可変性 イメージ図】

② 自然を“五感”で体感する様々な仕掛け

バイオフィリックデザインによる効果を最大限享受いただくために、植物による緑化演出のみならず、映像、環境音、照明、匂い、質感、味覚など、“五感”に訴える様々な仕掛けをご用意いたしました。



【ダウンライト型プロジェクター 完成予想イメージ】



【窓型スマートディスプレイ 完成予想イメージ】



【調光調色照明 完成予想イメージ】

✓ 映像・環境音

風に揺れる緑陰や水面等の自然映像を投影可能な「ダウンライト型プロジェクター」により、“ゆらぎ”がもたらすリラックス効果を期待できます。また、窓のような高精細な「窓型スマートディスプレイ」は、臨場感のある自然風景映像を映し出すとともに、画面自体がスピーカーとなり、迫力ある環境音の再生が可能のため、没入型の自然体感空間を演出します。

✓ 照明

植物育成に適した太陽光の波長域を再現可能な「調光調色照明」によって、室内における植栽の維持・育成を補助します。また、光のシーン設定と自動切り替え機能により自然光のうつろいを再現することで、サーカディアンリズム^{※11}の維持・補正をサポートすると同時に、色温度と光の色味調整による集中力アップや食欲増進効果等も期待でき、より健康に配慮した住環境を創出します。

✓ 匂い・質感・味覚

天然木を用いた「家具」、天然成分から抽出した「ルームフレグランス」、床材に用いた砂のようなやわらかな質感の「タイル」や、自家栽培のハーブなどを楽しめるグリーンポケットに設けた「インドア花壇」など、より身近に“五感”で自然を体感する仕掛けを随所に展開しました。

3. より快適な暮らしを実現する「ライフスタイルサポート企画」

忙しい共働き世帯やシニア世帯に向けた、家事負担を軽減し、より自由で快適なライフスタイルが実現できるような、ライフスタイルプランとソフトサービスをご提案します。三井不動産グループが運営する入居者サービス「三井のすまい LOOP」における、提携会社へのヒアリングを踏まえて企画をいたしました。

(1) 家事サポートプラン^{※12} ～家事負担軽減をサポートするハウスキーパー対応プラン～

ユーザー側だけでなくハウスキーパー側の利便性向上にも配慮し、家事負担軽減をサポートする「家事サポートプラン」をメニュープランとしてご提案いたします。

- ① 玄関ドアの電気錠をアプリと連携させ、ハウスキーパー等の第三者に対して、時限設定された解錠権限をアプリ上で付与することが可能です。不在時であっても指定された時間のみ、外部来訪者がスマートフォンを用いて住戸へ入室することができます。
- ② LDK や MBR など、第三者の入室を制限したい部屋のドアに設けられた電気錠により、住戸内でセキュリティラインの設定が可能です。スマートフォン一つで入室制限エリアを切り替えることができます。
- ③ ユーザー側の利便性向上のみならず、ハウスキーパー側の使い勝手も考慮し、家事スペースのレイアウトや設備等について検討を行い、使用頻度の高い、LD-キッチン間のドアをオートドア化しました。

■セキュリティラインの一例



【家事サポートプラン イメージ図】

(2) ケアホームアテンダント^{※13} ～生活密着型サービス～

生活密着型のサービス「ケアホームアテンダント」を提供いたします。忙しい共働き世帯やシニア世帯を中心に、住戸内の簡易な清掃は勿論、食材の購入からも依頼することが可能な料理代行、ネットオークションへの出品代行等、便利なサービスで日々の生活をサポートします。この他にもシニア層に向けたメニューとして、ご利用者との対話に重きを置いて日々の様々なお困りごとのご相談・お手伝いを行う、コミュニケーションケアサポートもご用意し、ひとりひとりの暮らしに寄り添ったサービスを提供します。

(サービスメニューの一例)

- 住戸内の簡易清掃
- 料理代行^{※14}
- 食材買い物代行^{※15}
- 洗濯、衣類整理
- ネットオークションへの出品代行^{※16}
- コミュニケーションケアサポート



【サービスメニュー イメージ画像】

■ CES2022「カーボンニュートラルデザイン」の概要

- ・三井不動産レジデンシャルは、カーボンニュートラル社会の実現に向けて環境に優しく自然に寄り添ってきた日本家屋の考え方を再認識し、日本家屋が持つ快適性をさらに進化させるためのテクノロジーを融合させた、新しいすまいづくりの考え方を「カーボンニュートラルデザイン」と位置付け、コンセプトプランを世界最大規模のエレクトロニクス展示会「CES2022」に出展いたしました。
- ・日本のすまいは、大きな庇や縁側空間といった中間領域を利用して太陽光を調整したり障子やふすまを開け放すことによって風の通り道を作るほか、五感で涼や季節の移ろいを感じるなど、自然の力を利用しながら快適に暮らす工夫が施されていました。また、建具の開閉によって間取りを変化させることにより、ライフステージに合わせたすまいを実現できる「ロングライフ住宅」とも言えました。
- ・日本独特の「パッシブデザイン」が体感できる空間のほか、日本の知恵と最新テクノロジーを組み合わせた現代～未来における新しいすまいの形をマンション専有部の模型と映像で提案いたしました。



【CES2022 三井不動産レジデンシャルブース 出展イメージ画像】

- ※1. ウェルビーイングとは肉体的にも、精神的にも、そして社会的にも、すべてが満たされた状態にあることを言います（1948年世界保健機関（WHO）憲章で記載）。
- ※2. 本物件では、「BEST-H（住宅環境設計ツール）」を用いることで、エネルギー消費量削減に寄与し得る要素（「通風性向上による室内の温度低減効果」や「オープニングの開閉による日射遮蔽効果」など）も加味したエネルギー消費量削減効果の定量化を実施しました（環境分析コンサルティングへの協力：株式会社日建設計、株式会社日建ハウジングシステム）。具体的には、住宅における ZEH の認定システムである「Web プログラム（住宅に関する省エネルギー基準に準拠したプログラム）」では評価対象項目に定められていない要素による省エネルギーに通じる取り組みを含めた一次エネルギー消費量削減効果を、BEST-H におけるシミュレーション上、一般仕様の住宅として想定し一定の条件を設定した「一般プラン」比で算出しています。なお、カーボンニュートラルデザインプランに住まう家族の想定生活スケジュール、および、それに応じた各設備の稼働スケジュールを設定して計算を行っており、BEST-H と Web プログラムとは算出根拠となる間取り・想定家族構成などが一部異なるため、算出される一次エネルギー消費量の数値は異なります。本内容はシミュレーション上の検証結果であるため、本住戸プランにおける CO2 排出量削減、光熱費削減および快適性向上を保証するものではありません。
- ※3. 対象住戸は WEST HILL 棟の一部住戸となり、また、有償のメニュープランとなります。
- ※4. SET*（標準新有効温度）は研究者や空調分野の技術者などの中で広く使われている体感温度指標です。この指標は、気温 [°C]、相対湿度 [%]、風速 [m/s]、平均放射温度 [°C] の温熱 4 要素の他、人の代謝量 (met) と着衣量 (clo) により算出できます。本物件では、一定の条件を設定し、この指標を用いて通風効果も含めた体感温度（快適性）を算出しました。
- ※5. 想定冷房使用期間が、一般プランでは年間 117 日間であるのに対して、カーボンニュートラルデザインプランでは 81 日間となり、その期間から一次エネルギー消費量の削減量を算出しました。
- ※6. ガスが供給状態であること、また、停電発生時にエネファームが発電中であることが必要となります。
- ※7. FSC 認証：Forest Stewardship Council®の提供する仕組みで、環境保全の観点から、適切な森林管理のもと生産された原料で製造された製品に与えられるマークです。
- ※8. 三井デザインテック株式会社にて対象商品の販売や相談を承ります。
- ※9. 対象住戸は WEST HILL 棟の一部住戸となります。
- ※10. バイオフィリアとは 1984 年にアメリカの生物研究者エドワード・O・ウィルソンが提唱した「人は本能的に生命を求める」「人は自然と触れ合うことで、健康や幸せを得られる」という考え方のことを言います。また、バイオフィリアの概念を取り入れたバイオフィリックデザインによる効果は、世界各国で実証されています。
- ※11. サーカディアンリズムとは本来人間が持つ約 24 時間周期の生体リズムのことを言い、これが乱れると睡眠障害等を引き起こす可能性が生じると言われています。
- ※12. 対象住戸は WEST HILL 棟の一部住戸となり、また、有償のメニュープランとなります。
- ※13. 本物件全体で提供予定の有償サービスとなります。サービスメニューの内容は今後変更となる場合があります。
- ※14. 料理のレシピは一般的なものに限られます。
- ※15. 代行で購入可能な店舗および商品は限られます。
- ※16. 出品先のオークションサイトは限られます。

■「三田ガーデンヒルズ」概要

所在地	東京都港区三田一丁目 102 番 1（地番）
交通	東京メトロ南北線・都営地下鉄大江戸線「麻布十番」駅徒歩 5 分～7 分 都営地下鉄三田線「芝公園」駅徒歩 10 分～12 分
用途地域	第二種住居地域・第一種文教地区
構造・規模	鉄筋コンクリート造・地下 2 階地上 14 階他
敷地面積	25,246.57 m ²
専有面積	29.34 m ² ～376.50 m ²
間取り	1R～4LDK
総戸数	1,002 戸（他店舗 2 区画）
レジデンシャルサロン開設日	2022 年 10 月 14 日
第二期販売開始時期	2023 年 11 月（予定）
竣工時期	2025 年 3 月（予定）
設計・施工	大成建設株式会社
オフィシャルサイト URL	https://www.31sumai.com/mfr/X1712/

■ 計画地案内図



■【参考】「三田ガーデンヒルズ」についてのリリース

https://www.mfr.co.jp/company/news/2022/0425_01/

https://www.mfr.co.jp/company/news/2022/1013_01/

【三井不動産グループのSDGsへの貢献について】

https://www.mitsuidosan.co.jp/esg_csr/

三井不動産グループは、「共生・共存」「多様な価値観の連繋」「持続可能な社会の実現」の理念のもと、人と地球がともに豊かになる社会を目指し、環境（E）・社会（S）・ガバナンス（G）を意識した事業推進、すなわち ESG 経営を推進しております。当社グループの ESG 経営をさらに加速させていくことで、日本政府が提唱する「Society 5.0」の実現や、「SDGs」の達成に大きく貢献できるものと考えています。また、2021 年 11 月には「脱炭素社会の実現」、「ダイバーシティ&インクルージョン推進」、2023 年 3 月には「生物多様性」に関し、下記の通りグループ指針を策定しました。今後も、当社グループは街づくりを通じた社会課題の解決に向けて取り組んでまいります。

【参考】

・「脱炭素社会実現に向けグループ行動計画を策定」

<https://www.mitsuidosan.co.jp/corporate/news/2021/1124/>

・「ダイバーシティ&インクルージョン推進宣言および取り組み方針を策定」

https://www.mitsuidosan.co.jp/corporate/news/2021/1129_02/

・「生物多様性方針を策定」

<https://www.mitsuidosan.co.jp/corporate/news/2023/0413/>

■ 三井不動産レジデンシャル「カーボンニュートラルデザイン推進計画」について

https://www.mfr.co.jp/content/dam/mfrcojp/company/news/2022/0315_01.pdf

すまいの高性能・高耐久化による省エネルギーの実現や、再生可能エネルギーの導入を促進するとともに、ご入居後の暮らしにおいても、楽しみながら省エネルギー行動等の環境貢献に取り組んでいただけるようなサービスの提供を推進し、すまいと暮らしの両面からカーボンニュートラルの実現を目指していきます。

■ 三井不動産レジデンシャル「カーボンニュートラルデザイン・CES2022 に初出展」について

https://www.mfr.co.jp/content/dam/mfrcojp/company/news/2022/0105_01.pdf

カーボンニュートラル社会の実現に向けたこれからのすまいづくりの考え方を「カーボンニュートラルデザイン」と位置づけ、環境に優しく自然に寄り添ってきた日本家屋の考え方を再認識し、日本家屋が持つ快適性をさらに進化させるためのテクノロジーを融合させた、新しいすまいづくりの考え方を取り入れたコンセプトプランを、世界最大規模のエレクトロニクス展示会「CES2022」（アメリカ合衆国ネバダ州ラスベガス、現地日付 2022 年 1 月 5 日～7 日開催）に初出展いたしました。

【三菱地所グループの取組み】

三菱地所グループは、2050年時点で目指す姿として「三菱地所グループのサステナビリティビジョン 2050」を制定しています。このビジョンの達成に向けて、長期経営計画 2030 において「三菱地所グループの Sustainable Development Goals 2030」を掲げ、具体的なテーマとアクションを定めるマイルストーンとして位置付けています。「Environment」「Diversity & Inclusion」「Innovation」「Resilience」の4つの重要テーマについて、より幅広いステークホルダーに、より深い価値を提供していきます。

【参考】

・三菱地所グループのサステナビリティサイト <https://www.mec.co.jp/j/sustainability/>

2022年3月には、脱炭素社会の実現に向けて新たなCO2等温室効果ガス削減目標を制定し、SBTiが発表した基準に沿って2050年ネットゼロ宣言をいたしました（2022年6月「SBTi」よりSBTネットゼロ認定取得）。三菱地所グループはESG先進企業として、引き続き事業活動を通じて持続可能な社会の実現を目指します。

■三菱地所レジデンス「CO2 排出量削減戦略」について

https://www.mec-r.com/news/2022/2022_0112_02.pdf

三菱地所レジデンスでは、脱炭素社会の実現に向けた取り組みを加速させるため、CO2 排出量を 2030 年までに 2019 年比50%削減を目指します。

*なお、本物件における取り組みは、SDGs(持続可能な開発目標)における5つの目標に貢献しています。

目標 6	安全な水とトイレを世界中に
目標 7	エネルギーをみんなにそしてクリーンに
目標 9	産業と技術革新の基盤をつくろう
目標 11	住み続けられるまちづくりを
目標 15	陸の豊かさも守ろう

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

The image displays five Sustainable Development Goals (SDGs) icons arranged horizontally. From left to right: 1. Goal 6 (Water and Sanitation): A blue square with a white water drop icon and the text '6 安全な水とトイレを世界中に'. 2. Goal 7 (Affordable and Clean Energy): A yellow square with a white sun and power button icon and the text '7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに'. 3. Goal 9 (Industry, Innovation, and Infrastructure): An orange square with a white icon of stacked cubes and the text '9 産業と技術革新の基盤をつくろう'. 4. Goal 11 (Sustainable Cities and Communities): An orange square with a white icon of buildings and the text '11 住み続けられるまちづくりを'. 5. Goal 15 (Life on Land): A green square with a white icon of a tree and the text '15 陸の豊かさも守ろう'. Above these icons is the 'SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS' logo, where the 'O' in 'GOALS' is a colorful wheel.